

# メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>

～ 夢に向かって ～

第14号

令和8年3月26日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

## 『約束』

校長 小熊 誠

今日で3学期が、そして後5日で令和7年度が修了です。本年度も土屋は様々なことがありましたが、保護者・地域の皆様のおかげ様をもちまして、何とか修了式を迎えることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月1日(日)2年生が、館岩に向けて出発しました。インフルエンザの波が市内を席捲している中、土屋の生徒たちは、何と誰一人スキーを離脱することもなく、館岩からは誰一人途中帰宅することもなく、2泊3日を過ごすことができました。素晴らしいです。生徒たちはもちろん、保護者の皆様の御協力の賜物です。ありがとうございました。3日(火)帰校した生徒たち顔、輝いていました。そして主担当の富田教諭の涙、美しかったです。緑学年、土屋の「味」から「顔」へ、進化が始まりました。令和8年度も楽しみです。

3月13日(金)、第40回卒業証書授与式が厳かに挙行され、192名の卒業生が立派に土屋を巣立っていきました。卒業合唱の「リフレイン」痺れました。赤学年の魂のこもった素晴らしい式となりました。式を迎えるに当たり、5日(木)の練習で、私は右下の2点を3年生と「約束」しました。

式当日、赤学年の生徒たちは、しっかりと私との「約束」を果たしてくれました。3年生全員と卒業証書授与の際、目と目を合わせることができました。そして中には私の「おめでとう」の言葉かけに笑顔だけでなく、小声で「ありがとう」と返してくれる生徒や、涙で声にならない生徒もいました。生徒全員と目と目を合わせて言葉を交わせ、息子192人の親の思いを感じられた幸せな時間となりました。そして何より、生徒たちは、呼名の返事は基より、壇上で堂々と正面を向いて、「親」に自分の存在を示すことができました。素晴らしい生徒たちです。言葉の種類は分かりませんが、「親」に何かしら感謝の思いが伝えられたと思います。本当に皆の思いのいっぱい詰まった素敵な式になりました。そして、北原PTA会長も祝辞の中でたくさん「ありがとう」の話をしてくださりました。きっと、先月号に載せさせていただいた通り、式当日は、土屋が「ありがとう」で、感謝の気持ちで満ち溢れた一日となったはずです。ありがとうございました。

また、部活動での生徒たちの進化も止まりません。3月21日(土)吹奏楽部のクラリネット8重奏が広島での全国アンサンブルコンテストで金賞を受賞しました。昨年打楽器に続き2年連続の受賞です。素晴らしいことです。生徒はもちろん、保護者の皆様、顧問の浅井先生、飯間先生、那須先生に敬意を表します。土屋の誇りです。そして運動部の生徒たちも、西区大会では、陸上、男子バスケット、男子ソフトテニスで優勝、女子バスケットは準優勝、ソフトボールは市長旗争奪杯で3位と、学校総合体育大会に向け楽しみな結果を残してくれています。

令和8年度開幕まで後5日。教職員一同、学校の主役である生徒たちを、守り、磨き、輝かせ、「希望の登校 笑顔の活動 満足の下校」の実現に向け、心を一つに「いい準備」を進めて参ります。保護者・地域の皆様、令和8年度も、より一層の御理解と御協力、そして温かい御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

土屋の輝きに、「メガ進化」に御期待ください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校



1. 私は、小学校も中学校も息子の卒業式参列できなかつた。だから、卒業証書は、自分の息子に渡すつもりで、192名一人ひとりに向き合っている。是非卒業証書授与の際には、一人ひとりと目と目合わせて、笑顔で渡したい。子どもの卒業を祝う「親」の思いを味あわせて欲しい。
2. 今ここに皆が居ることは当たり前ではない。「親」がいたからこそ存在できている。でも「親」とは中々向き合えない。明日はいい節目の日。「親」に「ありがとう」と言って欲しい。言えなかつたら、何か感謝の思いを伝えて欲しい。それも厳しかったら、今年から使用するオリンピックで実際に使用した特別な壇上(以下壇上)でしっかりと顔をあげて、堂々と真っすぐに立ち、今自分がここに居るということを証明して欲しい。